

薬史学会通信

No.28 1999年8月

〒113-0032

東京都文京区弥生2-4-16
(財)学会誌刊行センター内
日本薬史学会事務局

Phone (03) 3817-5821

FAX (03) 3817-5830

日本薬史学会 秋季講演会のお知らせ

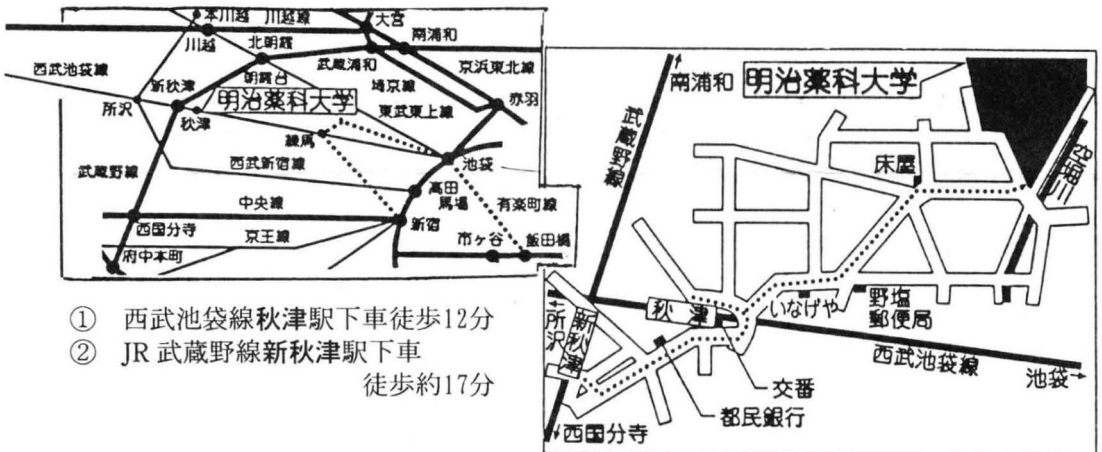
と き 1999(平成11)年11月27日(土)午後

と ころ 明治薬科大学(東京都清瀬市野塩2-522-1)
12:00~13:30 明治薬科大学資料館見学(随時)
13:30~14:30 講演
14:30~15:00 第34回国際薬史学会(フィレンツェ)報告
15:00~16:00 第6回医薬史蹟を訪ねる旅(イタリア)報告

講演演題 「外郎・透頂香」

講 師 日本薬史学会 薬学博士 杉 山 茂 氏

入場無料・来聴歓迎・薬剤師集合研修認定制度対象(2単位)



山崎幹夫「薬と日本人」、吉川弘文館(1999)

かつて病院薬局へ勤務したことのある薬剤師は、大学で学んだ思想に反して病院内での医師と薬剤師の評価に大きな隔たりがあることに、疑問を感じたことがあるであろう。

「・・・19世紀以来ドイツに興った有機化学に拠って製薬技術を導入するという成果をあげたわが国の薬学は、じつはもう一方では、明治以来、医療の現場に踏み込むことを許されない挫折の歴史をくり返してきた」とプロローグで述べる本書は、ほとんど全編にわたって医薬分業が実現されなかったわが国薬学の特異な歩みとその背景、分業に心血を注いだ薬学先駆者と一医師の執拗な反対、その根拠についての推測と医療現場における論理の矛盾等々を盛り込んだ、近代を中心にした薬学、薬剤師、または分業についての歴史書であり、その内容は重く深く、かつ明快である。

そして、「いま、日本の薬剤師はようやく医療の場において、これまでに経験したことのない重要な役割を与えられることになった」と結ぶ本書を閉じるとき、深い感動を覚えるとともに、将来へ向けてのずっしりとした心構えが一人一人の薬剤師に要求されているという思いに至る。

(高橋 文)

杉山 茂氏の「外郎・透頂香」研究と著述について

(株)カインスの創設者・杉山 茂氏は、出身が伊豆・伊東ということもあって、若いころから相州小田原の「ういろう」について関心を抱き、千葉大学薬学部卒業の年の1955(昭和30)年、日本薬学会第75年会(東京)薬史学部会で「日本における中世薬剤師の活動—関東の外郎に関する研究」と題して口頭発表を行い、翌年雑誌に投稿している¹⁾。

卒業後、氏は、多忙を極める実業界での生活に入ったが、恩師・故宮木高明先生の、今後とも研究の灯火を絶やさぬよう、との評価と激励を宗に、資料集めを続けること40年、ここに「中・近世における外郎(ういろう)家と売薬・透頂香(とうちんこう)の展開に関する薬史学的研究」として纏まり、1996(平成8)年千葉大学より薬学博士の学位が授与された。

薬史学研究で客観資料の厳密な考証が重要であることは言うまでもないが、現存資料と資料の隙間を埋める論理的思考も欠かす事は出来ない。むしろ応用の学として後者こそ研究評価の対象となる内容であろう。杉山氏は、従来、日本外郎家の祖人として2名の中国人(陳順祖・陳延祐)が挙げられていたが、二人は兄弟であると整理・立論された。また、小田原外郎家が京都外郎家の直系であるとの説を否定し、江戸末期西洋流兵法家で知られる伊豆荊山の江川担庵の家系に連なるなど、新たな学説を提出されている。

学位論文そのものは、A4版95ページの限定印刷物であり、薬系大学などでしか閲覧できないが、氏は最近「日本最古の売薬 外郎(ういろう)・透頂香(とうちんこう)、薬の社会史(近代文芸社²⁾)」、A5版185ページを刊行されたので閲覧可能である。

1) 陳外郎とその周辺、薬局の領域、5a、33、(1956)。

2) 近代文芸社；東京都文京区目白台2-13-2、Phon；03-3942-0869。(川瀬 清)

第34回 国際薬史会議(フィレンツェ・イタリア) 第2回 ご案内

主要プログラム

- 1999年10月20日(水) 前日会議
10:00～ 旧・新国際薬史学会役員会議
於陸軍化学薬学隊本部
- 1999年10月21日(木)
於ヴェッキオ宮殿サロン
09:30～ 開会式
於中央会議場
15:00～ 第一課題、薬事関係法規の基本
であるフロレンス処方集と薬局方
基調講演: M. C. Francés 教授(マドリド)、W. D. M. Jahncke 教授(ハイデルベルグ)
16:00～ この主題に関する口頭発表
於サンタ・クローチェ聖堂-食堂
19:00～ 国際薬史アカデミー本会議
専門職と社会: D. Colapinto 教授(ローマ)
- 1999年10月22日(金)
於中央会議場
09:30～ 第2課題 各時代の薬学・薬業
の反影としての薬局方
基調講演: F. Ledermann 教授(ベルン)、Ch. Friedrich 教授(グライスヴァルド)、F. Chast 博士(パリ)
10:30～ 関連口頭発表
14:30～ 基調講演: A. M. Carmona 教授(バルセロナ)、A. Corvi イタリア薬史学会長
15:30～ 関連口頭発表
- 1999年10月23日(土)
於中央会議場
09:30～ 第3課題、ルネッサンス以降将来(the third millennium)に至る一般的薬学系学術
基調講演: P. Dila 教授(マールブルグ)、Ch. Varolin 博士(パリ)
10:30～ 関連口頭発表
16:30～ 基調講演: A. Russo 教授(イタリア薬史学会名誉会長)、D. Helfand 教授(アメリカ)
18:30～ 第35回国際薬史学会予告、閉会式

34th

Congressus Internationalis Historiae Pharmaciae

FIRENZE
20-23 OTTOBRE 1999

34^{eme} Congrès International
d'Histoire de la Pharmacie
FLORENCE, 20-23 Octobre 1999

34. Internationaler Kongress
für Geschichte der Pharmazie
FLORENZ, 20-23 Oktober 1999

34th International Congress
for the History of Pharmacy
FLORENCE, 20-23 October 1999



ACCADEMIA ITALIANA DI
STORIA DELLA FARMACIA
SUB AUSPICIIS



○参加登録申込(書式はプログラムにあり)
宛先:

Promo-Leader Service-via della Mottonaia
17・1-50121 Firenze(Italia)

金額:1999年6月15日以降

会議参加費 400,000 It. Lit.

同伴者費用 300,000 It. Lit.

日本薬史学会事務局にも若干の案内冊子があります。一応お問い合わせ下さい。

○第6回医薬史蹟を訪ねる旅(イタリア)について(第4ページ参照)

すでに予告いたしました旅行計画が次第に固まりましたのでお知らせいたします。

日 程:1999年10月18日~同29日

費用概算:476,000円

主 催:日本薬史学会

旅 行 社:(株)スペース

電 話 03-3263-7664

F A X 03-3264-2635

担当外務員 深 沢 敦

第6回 医薬史蹟を訪ねる旅

[国際薬史学会 出席]

株式会社スペース

	月日曜	都市名	発着時間	交通機関	摘要	朝	昼	夕
1	平成11年 10月18日 (月)	東京(成田) (発) ロ - マ (着)	午 前 夕 刻	航空機 バ ス	空路、直行便又はヨーロッパ乗り 継ぎ便にてローマへ 着後、ホテルへ [ロ - マ 泊]		<input checked="" type="checkbox"/>	
2	10月19日 (火)	ロ - マ 滞 在	午 前 午 後	バ ス バ ス	バチカン美術館・シスター礼拝堂 観光、ミケランジェロの「最後の 審判」などの傑作をご覧頂きます ローマ市内観光 [ロ - マ 泊]	○		
3	10月20日 (水)	ロ - マ ピ サ フィレンツェ	午 前 午 後	バ ス	ローマ>ピサ>フィレンツェ ローマより斜塔で有名な町ピサへ ドゥオモ(入場)、その後ルネッ サンスの都フィレンツェへ向かひ ます。 [フィレンツェ 泊]	○		
4 5	10月21日 (木) 10月22日 (金)	フィレンツェ 滞 在			終日: 自由行動 国際薬史学会参加 又は市内観光 ウフィツィ美術館、 ミケランジェロ広場など [フィレンツェ 泊]	○		
6	10月23日 (土)	フィレンツェ ポローニャ	午 前 午 後	バ ス	出発まで自由行動 中世の都市ポローニャへ [ポローニャ 泊]	○		
7	10月24日 (日)	ポローニャ ベ ニ ス	午 前 午 後	バ ス バ ス	ポローニャ半日市内観光 ポローニャ大学、大学博物館など 見学後、ベニスへ [ベ ニ ス 泊]	○		
8	10月25日 (月)	ベ ニ ス 滞 在	午 前 午 後	バ ス	ベニス半日市内観光、サンマルコ 寺院などの見所を観光いたします 自由行動 [ベ ニ ス 泊]	○		
9	10月26日 (火)	ベ ニ ス バドヴァ ミ ラ ノ	午 前 午 後	バ ス	ベニス>バドヴァ>ミラノ(280Km) バドヴァ 大学、植物園(EUR最古) を見学後、ファッションの町 ミラノへ [ミ ラ ノ 泊]	○		
10	10月27日 (水)	ミ ラ ノ 滞 在	午 前 午 後	バ ス	ミラノ半日市内観光 ダビンチ像、ダビンチ科学技術博 物館を訪れます。 自由行動 [ミ ラ ノ 泊]	○		
11	10月28日 (木)	ミ ラ ノ (発)	午 前 午 後	バ ス 航空機	出発まで自由行動 空港へ 空路、直行便またはヨーロッパ 乗り継ぎ便にて東京(成田)へ [機 内 泊]	○	<input checked="" type="checkbox"/>	
12	10月29日 (金)	東京(成田) (着)	午 前		到着後、解散	<input checked="" type="checkbox"/>		

時刻並びに交通機関は余儀なく変更になる場合もございますのでご了承下さい。